



「自分のことが好き」につながる自立活動をめざして

児童生徒の小さな変容を見逃さず、伝えましょう。

各教科・領域等で育成すべき資質・能力を支える

「自立活動」



大切にしたい「3つのポイント」

- ・ 児童生徒の**教育的ニーズ**を把握する。
- ・ **一人一人に応じたスキル**を指導・支援する。
- ・ 児童生徒に伝わるように、**励まし、賞賛、価値付け**を行う。

障がいによる困難を主体的に改善・克服するために…

【⑤具体的な指導内容の設定】

児童生徒が興味・関心のあることを利用しましょう。

「個別の指導計画」の作成、見直し、引継ぎ

普段の生活につなぐ

- ・ 学校の教育活動全体で
- ・ 家庭で
- ・ 地域で
- ・ 社会で

一人一人に応じたスキルを指導・支援



スムーズにできるようになった！
気持ちよく生活するための方法が分かった！
困ったときの対処方法を見つけた！
自分にもよいところがあった！

将来の自立と社会参加に向けて…

【①実態把握】

児童生徒の課題ばかりでなく、できることや得意としていることにも着目しましょう。

これを使えばうまくできるかも…
この方法でやればいいかも…
これならできるかも…
こうやって考えると分かるかも…



励まし、賞賛 価値付け

成功体験の積み重ねによる
自己肯定感や
自己有用感の向上、
自信回復、意欲の高まり

教育的ニーズの把握

自己理解を深めて…

できない…
分からない…
やりたくない…
自分なんて…



【④指導目標（ねらい）の設定】

少し努力すれば達成できそうなことを目標にします。6区分27項目から必要な項目を選定し、相互に関連付けましょう。

小・中学校の学習指導要領には「特別支援学級において実施する特別の教育課程については、…(中略)…自立活動を取り入れること。」「**通級による指導**を行い、特別の教育課程を編成する場合には、…(中略)…**自立活動の内容を参考**とし、具体的な目標や内容を定め、指導を行うものとする。」とされています。



失敗体験等からの
意欲や関心の低下、
自信喪失、不安増大

【②情報の整理】 → 【③課題の焦点化】

「すでにできていること」「もう少しでできること」「援助があればできること」「できないこと」などを、自立活動の6区分27項目で整理しましょう。

※ 実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れ（流れ図）の例示は「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚園・小学部・中学部）平成30年3月 文部科学省」p128～を参照してください。